

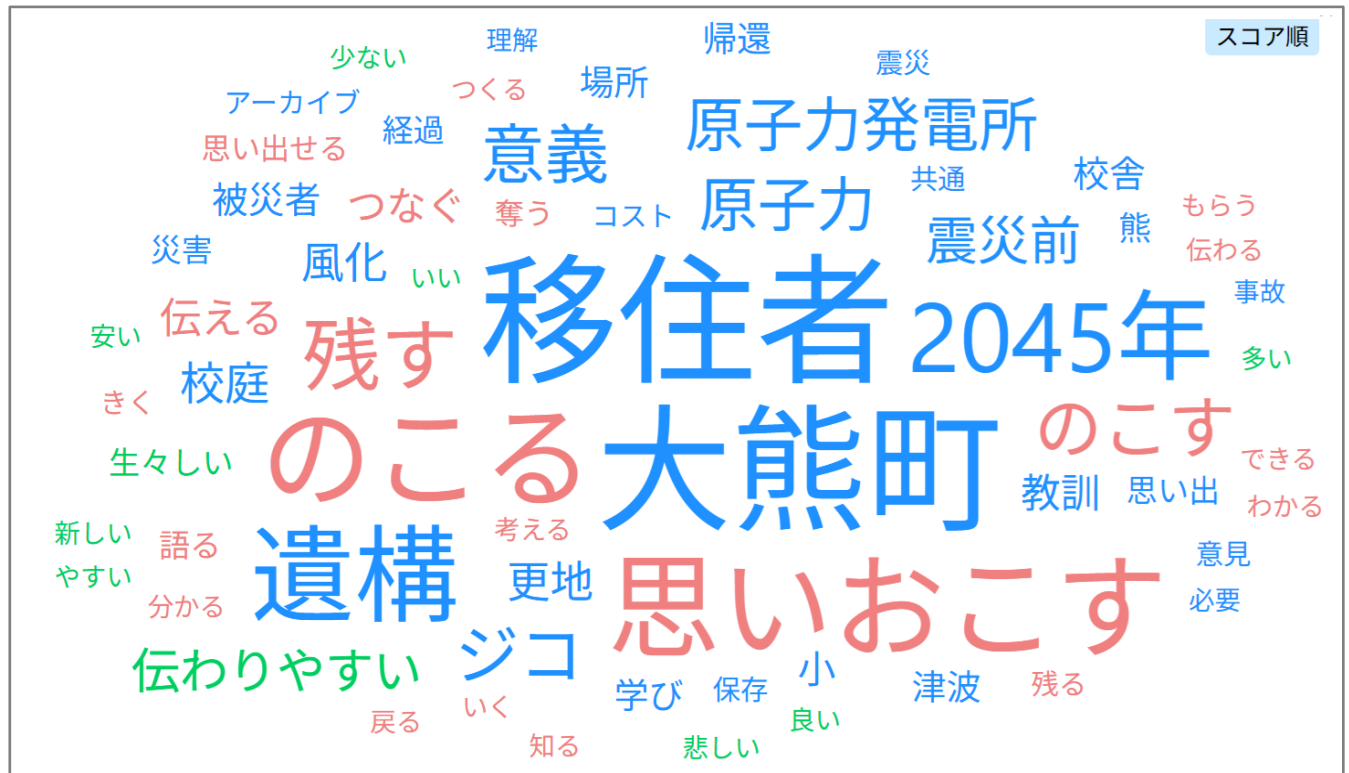
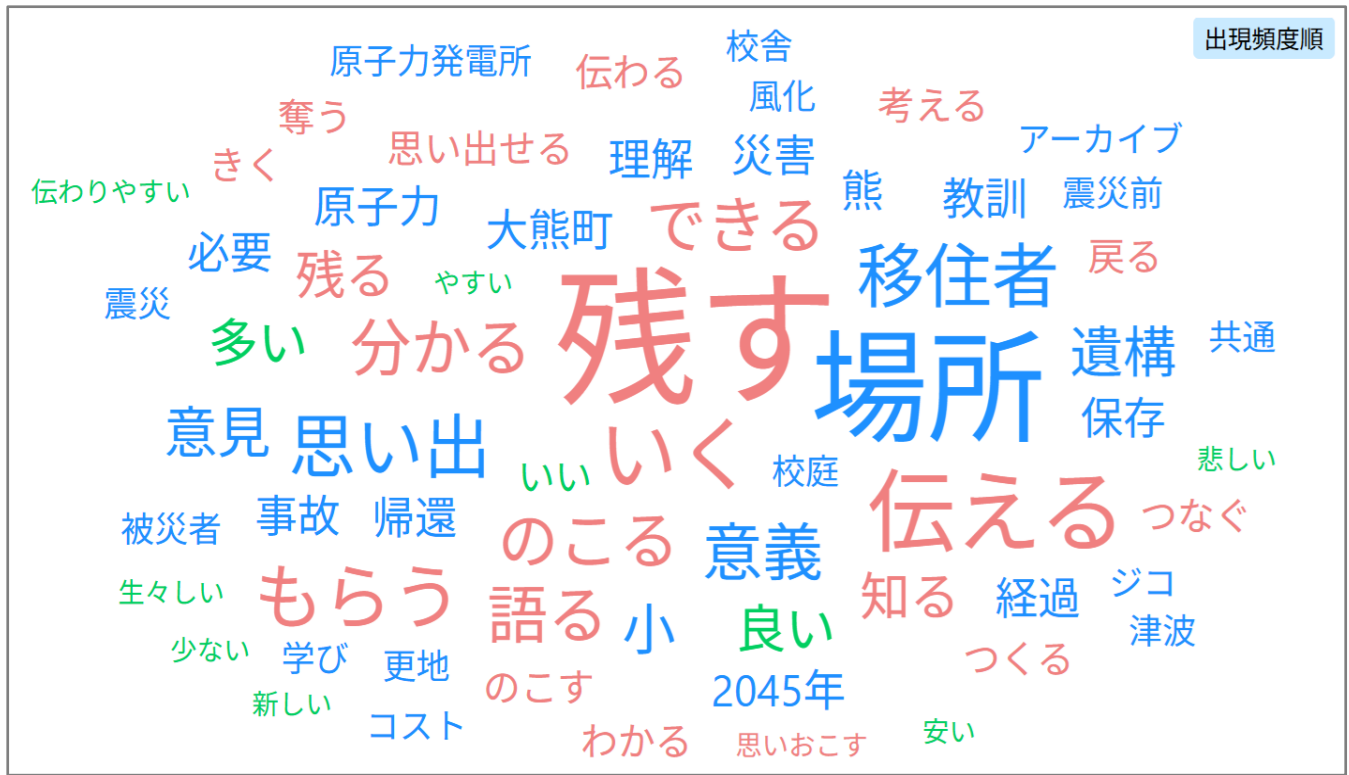
グループワークでの声：「第5回 遺構と地域の未来を語り合う場」（2026年6月6日（土）開催）

Gr 1	<ol style="list-style-type: none">1 時間経過する中で価値が出てくる2 そのままのこっているものが少ないからこそこのこすべき3 2045年まで戻れない人が過ごした時間を思いおこさせる大切な場所4 津波の遺構は多いが原子力災害の遺構は他にない5 サンライトおおくまの事務室と同様にガラスの向こうは震災当時のまま残っている6 見慣れた建物が残っていると町を離れた人がけてきやすくなる7 帰って来たときに昔の面影がないと悲しい8 小学校はどの世代も共通した思い出、よすが9 辞書とかの学びの痕跡が子どもたちの笑顔を思い起こさせる10 奪われた日常がそのまま残り、校庭の時間は進んでいる対比。特異な場所11 気仙沼の防潮堤。海が見えるように工夫をと意見12 人の肉声で語るのが伝わりやすい
Gr 2	<ol style="list-style-type: none">13 〈意義：教訓として〉印象にのこることが防災・減災につながる良い教材14 〈意義：教訓として〉原子力災害を伝える唯一の場所15 〈意義：被災された方にとって〉被災者の心の復興（残したい人がいるならのこすべき）16 （残したい）一方で、反対意見もきいてみたい17 反対される方の意見とのバランス18 〈意義を伝える〉自然災害との比較ができるような残し方19 〈意義を伝える〉被災者の心情に良い効果があることを示す（大学など）20 〈保存コストの解消〉復興予算以外の国のお金で保存21 〈保存コストの解消〉知名度を上げる（例：広島原爆ドーム）
Gr 3	<ol style="list-style-type: none">22 2045年までどうする？23 2045年まで、バスツアー24 以前の風景をどのようにして展示するか25 思い出を提示する、マップ？26 「あの場に戻る」ではなく、「あの時に戻る」を意識する27 大熊町は移住者の多い町→“知らない”人々に伝えていく場必要28 移住者にとっての心理的ハードル29 帰還者（地元の方）と移住者が打ち解ける30 移住者と帰還者とが語り合える場所31 移住者が多い中で、大熊町のこれまで（震災前まで）の歴史をどうつないでいくか32 伊集者と帰還してきた人が一緒に楽しめるもの？ イベント？33 一年に一度でも集う場所をつくる34 外部の人や移住者のためだけでなく、地元の人のためとしても
Gr 4	<ol style="list-style-type: none">35 忘れない場所として残すこと36 例えば、大川小を見てわかる、ただ残すではない37 「伝承の道具」ではなく、思い出と教訓を共存させる遺構38 知ってもらうこと。考えてもらうことが大事39 理解。人によって価値観が違う40 遺構として残すことの重要性の理解を広げていく必要

- 41 シェアすることで理解を生み、同意が増える
- 42 学びと思い出を残すために…、ある程度、整備してもいいのでは？
- 43 記憶の風化を防ぐために、「時間」を体感できる方法
- 44 見てわかる。記憶の風化を減らす
- 45 校舎の生々しさを伝える
- 46 「モノ」があることと「人の言葉（語り）」をつないで伝える
- 47 校庭と校舎は別として残していく
- 48 模型をつくる？ アーカイブ
- 49 写真を用いて教室をアーカイブミュージアムに利用

- Gr 5
- 50 1956年反原発運動盛んだった。地権者いなかったから原発にすいあげてもらおう
 - 51 原子力発電所ジゴについてのこっていること→熊小なのは。事故があった事でこうなると分かる
 - 52 経過がみられる場所、残せる可能性がある場所
 - 53 原子力発電所ジゴについてのこっていること→熊小なのは。事故があった事でこうなると分かる
 - 54 熊小をみることで、事故があったことを目でたしかめられる→国内・海外
 - 55 原子力災害を目で確かめることができる場所
 - 56 あのまま朽ちていく。時の経過もそのまま見せる
 - 57 実物が語り、あることで伝わる力がある
 - 58 きれにするのではなく、そのまま残すことに価値がある
 - 59 時、生活が奪われたことが分かる場所。チェルノブイリ、町をみることで起こしてはならない。
 - 60 地震、津波のこと。原発事故については、イチエフを見
 - 61 更地にして新しくなると思い出せない
 - 62 更地にして変わって良いことなのだが、昔のことを思い出せない
 - 63 震災を思い出したくないと話が始まらない
 - 64 場があることが重要。こういうことになった。くつも上げきもそのまま飛び出した→実際にあった方が感情移入ができる
 - 65 語りつぎとセットであると分かるのでは
 - 66 「街」単位の残す場所があってもいいのでは？
 - 67 人
 - 68 インフラ（教育）安くしていた。大熊町のやり方

- Gr 6
- 69 実際に見て、学ぶ必要があると感じた
 - 70 問いを投げかける機会を失ってはならない
 - 71 フィールドワーク。映像では伝わらないもの
 - 72 変化するもの。変化しないもの。
 - 73 自分ごと
 - 74 小学校の意味。多くの人の当たり前。共通の思い出、重ねられる想い
 - 75 「思い出」を残す対話の場所
 - 76 「思い出」を語る場所に
 - 77 急がなくてもいい。まずは、知ってもらう、考えてもらう。
 - 78 多くの人にどう伝えていくか。
 - 79 残したい人だけにならない、いろいろな意見をきく
 - 80 震災前まで大切にされていたモノを残す
 - 81 樹木を手入れ管理すべき



【テキストマイニングからわかること】

頻出単語からは、遺構保存の意志が示され、どのような**意義**や**活用**の**アイデア**に関する声となっている。今回の**特徴**としては、重要度を示すスコア順の結果に示されるように、「移住者」「大熊町」という、単純に「保存・解体」という議論ではなく、今日、移住者の町となっている大熊町において、町に“残るもの”や“思い”を通して、**検討プロセスそのものを大熊町に関わる人たちがつなぐ機会**となっていることである。

グループからも「残したい人だけでなく、いろいろな意見を聴く」「反対される方の意見とのバランス」などの声も“この場に居ない人たちの声を尊重し、「急がなくてもいい、まずは知ってもらい、考えてもらう」という**継続して様々な立場の方との対話**をしていきたい要望が示されている。

「遺構と地域の未来を語り合う場」の取り組みが遺構保存を目的とするのではなく、多様な意見を聞きながら、町の未来を共に**考え続けるための“手段”としての対話**に位置づけられ、定着しつつあると考えられる。